

よりよき韓日交流のために②

小松電機産業(株)社長 小松昭夫さん

「異なる立場から見える知らない一面」

——歴史を紐解く上で必要な視点は。

異なる立場に立って物事を観察し判断すると、知らなかった一面が見える。太平洋戦争で敗戦した日本には施政権はなく、分割されようとしていた。ところが広島と長崎への原爆投下で状況が一変し、分割案は回避された。隣国の韓国(朝鮮)はしかし、朝鮮戦争後、

東西冷戦で分割されてしまっ

た。伊藤博文を暗殺したとされる安重根は、日本の判決に対し上告しなかつ

た。それにより、安重根は義士として

韓国で崇められた。日本では全く異なる。ところが当時、安重根に銃撃された満鉄役員の中には「最も尊敬するのは、残念ながら安重根だ」と言った人物がいる。この意見は人類進化の視点で現在に生かすことができる確信している。

——歴史的な事象が、各国の基軸になっている例とは。

ドイツはドイツ側の資金で、自国民と被害国民の共通の理解の下、ユダヤ人虐殺の記念館を作った。背景には、いかに大陸の中で共存するかという切実な課題があったからだ。日本は戦後、

世界に先駆けて自動車専用船を作るなど、加工貿易立国として独自路線を選んだ。韓国は独立記念館や安重根記念館を作り、歴史問題を国家発展の基軸に置いている。半面、日本は平和に対してどこか曖昧な認識の下に国家間連携を好む傾向が生まれた。

——韓日関係を好転させるヒントは。

戦後70年を迎え、世代も変わった。歴史問題は、解決を目指すよりも世界人類のために活かすことが望まれる時代へと移ってきている。「10回の議論より1回の懇親、10回の懇親より1回の旅」といわれるように、人類の特性が開花するテーマを定め、共に協議・行動することが求められている。6カ国協議の枠組の国民版を元にした、国民国連構想と米国のスマートパワー、中国の和諧、韓国の和諍、オートピア、日本の出雲で生まれた和譲の中に、明るい未来を生み出すヒントがあるのではないか。



小松昭夫さん